

平成28年度 学校評価シート(専攻科)

学校名: 和歌山県立熊野高等学校 学校長名: 夏目 康 弘

| | |
|---------|---|
| 目指す学校像 | 生徒が安心して学校生活を送ることができ生徒の自己実現に向けた支援ができる学校 |
| 育てたい生徒像 | 幅広い人間性と「自立」「共生」「挑戦」の精神を身につけて、社会貢献ができる生徒 |

| | |
|----------|--|
| 本年度の重点目標 | 1 授業の充実と確かな学力の育成を図る。 |
| | 2 キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。 |
| | 3 地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域防災意識の向上を図る。 |
| | 4 倫理観や規範意識を高め、ルールを守り、安心安全な学校生活の実現を図る。 |

| | |
|-----|--------------------|
| 達成度 | A 十分に達成した (80%以上) |
| | B 概ね達成した (60%以上) |
| | C あまり十分でない (40%以上) |
| | D 不十分である (40%未満) |

学校評価の結果と改善の方策の公表の方法
評議員会を実施し、インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載する。

(注) 1 重点目標は3~4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

| 自 己 評 価 | | | | |
|---------|--|--|--|---|
| 重 点 目 標 | | | 年 度 評 価 (3 月 2 2 日 現 在) | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的取組 | 評価指標 |
| 1 | 授業は落ち着いた雰囲気の中で展開されている。生徒たちも真剣に取り組んでいるが、積極性、主体性に欠ける部分が見受けられる。また、自分なりの学習方法を身につけ計画的に学習を進めている生徒が少ない。そのため、自分で目的を持ち自主学習の習慣が確立ができるようきめ細かい個別指導と教員の授業力向上が必要である。 | 教員が授業研究等を行うことで授業力向上をはかっている。 生徒の主体性向上のための方策がとられている。 専門職者として学力向上と技術を獲得し自分の目的を目指す学習を意欲的に行うことができる。 | 文部科学省研究指定校を受け、生徒の主体性向上のための授業力向上を図る。 評価基準に則った学習指導を実施し、学力定着を実現する補習の充実を組織的に取り組む。 生徒各自の自己実現にむけての情報提供と共に個別丁寧な指導を行う。 | 研究・公開授業を実施する。研究協議を実施した際には、内容を共有できるように情報提供の機会を確保する。 授業や夏休みの補習、放課後練習に参加し、学力定着を図る。模擬試験の偏差値の向上と国家試験全員が合格できる。 進路アンケートや個別指導を実施し、生徒の進路に沿った自己学習指導を組織的に実施する。 4月当初に実施した2者面談や進路アンケートを実施し、指導に活かした。 |
| 2 | 卒業生36名のうち国家試験合格者33名出すことができた。33名の中、進学者3名と就職者29名と進路実現できた。今年度も引き続き多くの卒業生を出すことを目標に国家試験合格を目指して努力していきたい。 | 生徒の進路実現に向けての取り組みがされ、生徒自身が自ら考え行動し、決定する指導ができていく。 将来像の看護師像をイメージでき、自分に合った進路先を決定できている。 | 「進路の手引き」の活用、進路講話、卒業生の体験談講話を実施しキャリア教育を充実する。 適正・能力を把握し、生徒各自の自己実現にむけての指導を行う。 「進路だより」「保護者会」や面談等、様々な機会を捉えて保護者に向けた進路情報を発信する。 | 校内ガイダンスや卒業生の講話の効果的な実施。 進路アンケートを実施し、一人一人の進路実現に向けた丁寧な指導を行い就職・進学先が決定する。 面談や「進路だより」など進路情報に触れる機会を設ける。 4月当初に実施する懇親会や三者面談を実施。懇親会で進路状況の情報を提供の実施。 |
| 3 | 専攻科生になり社会人となる意識を育てるために、授業や自治会活動を通して地域・社会の一員としての意識を持ち、実習現場で実際の働きや地域の方と触れ合う機会を多くする必要がある。 | 授業や実習の中で、地域の特徴の中で生活している人々に対する知識を深め、防災訓練を通して自らを守ることと共に地域でどのような行動をとるべきか理解できている。 自治会活動を通して自己の役割を理解し、積極的に学校活動に参加する。 | 教科の授業や実習を通しリスクマネジメント能力の育成や実際の活動の状況に興味を促す。 防災訓練の参加や実習施設の災害時の対応などを学び、様々な状況においての地域の活動や緊急時の実際の対応が理解できる。 自治会活動やHR運営、学校行事等、自主活動へ積極的に参加させる。 | 公衆衛生分野において教科、実習を含め再試験該当者がでない。 地域の特性や活動に興味を持ち、災害訓練等のボランティア活動に参加する。 様々な場面で役割を担えることができ、各行事に積極的に参加する態度を育成する。 |
| 4 | 生命の尊厳について深く認識することができ、真摯な態度を確立できる。挨拶、マナー指導の充実をはかり、生徒としての自覚・集団規律を持つことができる。 | 授業、臨地実習を通して看護師としての自覚に目を向け、様々な命の尊厳についての学習を深める。挨拶、マナー指導の充実を行い、基本的な生活習慣の確立ができる。 | 授業、臨地実習を通して、医療現場における生命の尊厳にかかわる問題に目を向け、様々な命の尊厳について強い精神と看護師を目指す者としての自覚を育む。 社会人を目指すものとして、TPOに合わせた態度や服装が身に付くことができる。 | 授業や実習では、知り得た個人情報の遵守を徹底する。実習においては、誠実で真摯な態度を育成するため、自分の行動を振り返る機会を与える。 身だしなみなどの生活指導が減少する。 実習や授業前の指導やマナー講習会の実施。 |

| 学校関係者評価 | |
|---|---|
| 平成 29 年 3 月 22 日 実施 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 第1回専攻科評議員会の席で、評議員の皆さんから次のような感想、意見が寄せられた。 | 指定事業研究協議会で発表後の意見や質問を問われる。「ピア評価はきちんと思っていることを評価できているのか」との質問を受け、定量評価で実際に厳しい評価をつけている生徒もおり、つけられた生徒は、嫌そうな顔をする場面もあった。クラスとして意見を言いやすい関係作りはできている。お互いの意見を取り入れることが難しい。自分の足りない所を取り入れて学び合いの教育はとても大切である。他者の良いところを見て、会話を広げ、足りない所はお互いにカバーしあえる関係が大切。 ピア評価の中で「有用なあるいは突っ込んだ質問をする。」という項目があまり伸びていなかった。その点についての対策については、画一的な答えしか出ない傾向がある。いろんな視点から見たい意見を出して欲しい。主体性を育む関わりは、難しい。考えるプロセスが大切であるため、否定をしないことでのいろんな意見がでくず。普段の授業でも主体的に取り組める時と取り組みない時もある。苦手意識を取り払い、主体的に取り組めるように後押しできる関わりが大切である。ヒントがあれば広げていける。取っ掛かりを自分達で見つけられる関わりをしていきたい。 |
| 本時の授業「看護研究」は、授業がどの段階か分かりにくかった。との質問では、研究計画書を作成する。10時間の8時間目であること、授業時間内に作成することが難しいため例年時間外の活動が多い。 | |
| 実技試験の不合格者が多かったようだグループ内で練習するのが難しい場合がある。自己学習の時間を確保することは、大切。自分から学びたいと思えるような環境を提供する必要がある。 | |